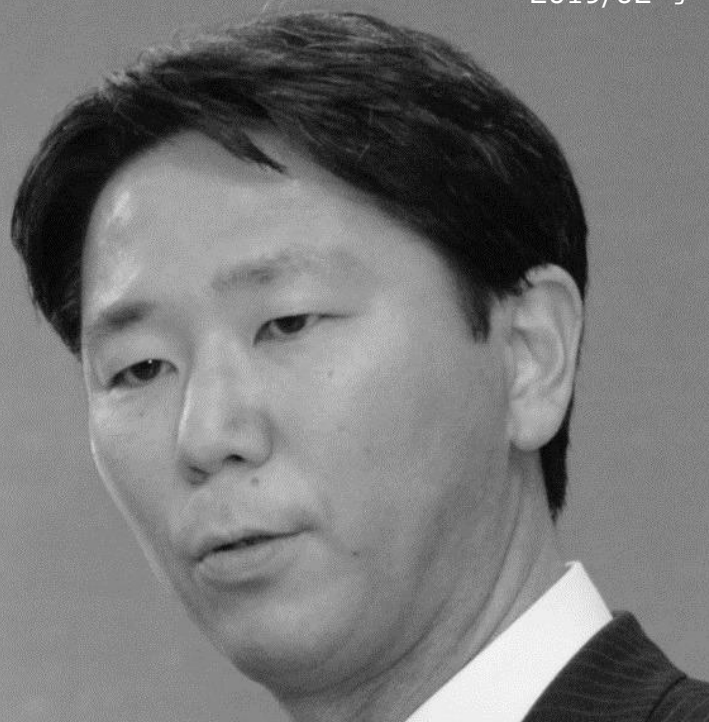


No Challenge, No Future
Hidehiko Oka



これからの江別を考える3つの論点

岡英彦 元市議会議員

□ 子育て世代の転入

2016年より江別は3年連続の転入超過（市外に転出する人よりも市内に転入してくる人が多い状況）となっています。

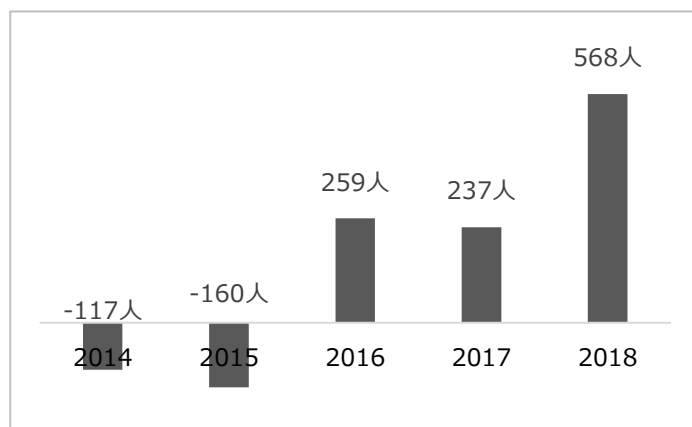
ここ数年の子育て政策や住宅取得支援制度の効果もあるとは思われますが、最も大きな要因は、野幌地区の緑ヶ丘など比較的利便性の高い地域にまとまった量の宅地造成が行われていることです。

最近まで行われていた土地区画整理事業による大規模な宅地分譲は販売に苦戦していたことから、江別での住宅販売は難しくなっているとの意見もありましたが、駅からの距離と札幌へのアクセスが適切な場所であれば、新規の転入者が入ってくる可能性があることが証明されたと言えます。

子育て世代が常に入ってくることは江別の生命線とも言え、この流れを止めないためには次のような考え方が重要です。

まずは、保育園の拡充を継続し、保育料と子ども医療費の助成について札幌と同レベルを維持することです。子育て世代にとってニーズの高い

グラフ1：江別市の転入超過数の推移



出典：総務省住民基本台帳人口移動報告

政策は待機児童の解消と子ども医療費の助成であり、札幌に先んじて手を打つ必要があります。

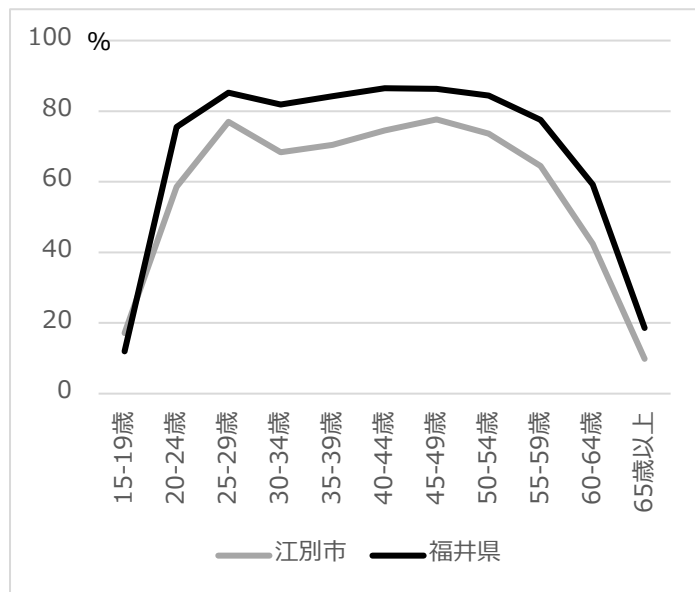
次に、利便性の高い地区において十分に利用されていない土地や空き家に対して流動化を進めることが求められます。また、単に土地価格が安いから選ばれるのではなく、江別ならではの良好な住環境と地域の繋がりを理解して選んで頂くことが重要になります。

人口減少は止められませんが、新しい子育て世代が常に転入してくることで、まちの活力を維持することが可能となります。

□ 女性も男性も働きやすい地域

北海道における女性の就業率は全国に比較すると低く（全国 11 ブロック別で最低）、江別も例外ではありません。経済分野でもこれまで以上に女性が活躍することは、人口減少社会における人手不足への対応といった観点だけでなく、女性も男性もより働きやすく、より暮らしやすい社会をつくっていくためにも大変重要です。

グラフ 2：女性の年代別労働力率（2015 年）



出典：2015 年国勢調査

既に福井県の女性の就業率は他の先進諸国がそうであるように M 字カーブ（結婚・出産を機に仕事をやめる現象）を克服しつつあると言われています。

北海道において女性の就業率が低い要因は、企業の制度や私たち自身の意識の問題も指摘されていますが、子どもを預けられる環境がまだまだ不足していることも確かです。今後、福井県並の女性就業率を視野に入れて子育て環境を整えていく必要があります。

□ 外国人も暮らしやすい地域

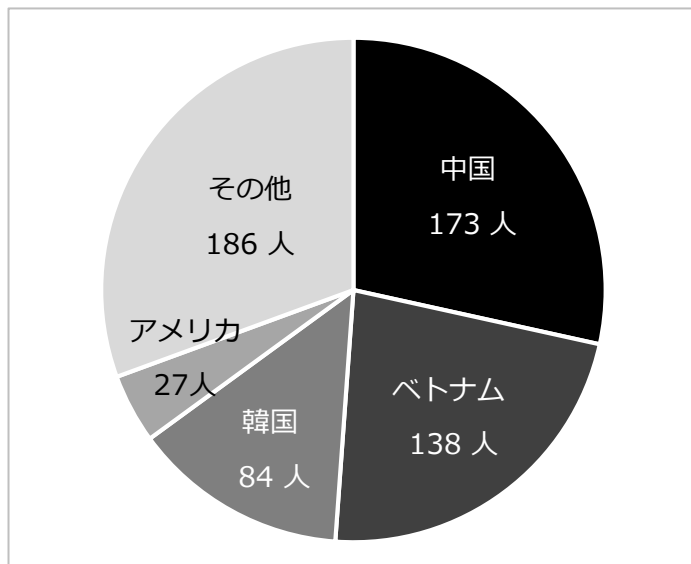
OECD（経済協力開発機構）の 2015 年外国人移住者統計によると、海外から日本への流入者は 39 万人を超え世界 4 位となり、既に日本は事実上の移民大国になりつつあります。

日本における外国人人口の割合は市町村によって大きな違いがありますが、おおまかに言って、外国人人口の割合の高い地域ほど生産年齢人口を確保し活力がある地域とすることができます。

江別においては 2013 年に 381 人だった外国人人口は 2018 年には 608 人にまで伸び、過去最多を更新しています。2019 年 4 月からは外国人労働者の受け入れが拡大され、地域間の人材獲得競争が更に加速すると予想されます。

これまで江別は外国人政策に対して大きな力を入れてきたとは言い難いですが、これからの時代は、単に労働力としてではなく、地域社会の一員として外国人を受け入れる環境づくりが自治体レベルで求められます。

グラフ 3：江別市の在留外国人数



出典：法務省在留外国人統計 2018 年 6 月

※岡英彦ブログもご覧ください！

累計記事数 400 本超、月間アクセス数 3000

岡英彦プロフィール：1972 年生まれ、11 歳まで大麻栄町に暮らす。札幌南高校卒業、茨城大学大学院理工学研究科修了。東京の IT 企業に約 9 年間勤務。明治大学公共政策大学院修了、2007 年江別市議会議員選挙で初当選、2011 年過去最多得票で再選、2015 年江別市長選挙次点。錦町在住。資格：公共政策修士、国会議員政策担当秘書、江別まち検定上級

編集・発行 岡 英彦

〒069-0811 江別市錦町 2-3-102

電話：011-384-2705 FAX：050-3457-5095 メール：info@ebetu.jp ブログ：www.ebetu.jp